

Association between physical activity and mortality in the Japanese general population with mild to moderate impaired renal function: The Jichi medical school (JMS) cohort study

メタデータ	言語: en 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2024-03-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 片橋, 尚子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/0002000115

論文審査の結果の要旨

身体活動不足は世界の 9%の早期死亡原因と考えられているが、これまで腎機能障害患者に焦点を当てたデータは不足しており、また腎機能障害のある地域住民における身体活動と死亡の関連についてはその研究結果に一貫性のある結論が得られていなかった。この研究は、腎機能障害のある日本の地域住民に焦点を当て、身体活動量や強度と死亡の関係を調査するもので、自治医科大学の倫理委員会で承認を受けて行われたコホート研究のデータを解析したものである。

1992 年から 1995 年までの住民健診を基に 12,490 人を追跡し、腎機能障害のある被験者 638 人を解析した。身体活動量は *physical activity index* に基づき、強度は *sedentary* と *nonsedentary* の軽強度、中高強度に分類された。対象者の平均年齢は 63.3 歳で、72.4%が女性であった。11,567 人年の観察期間中に合計 172 人の死亡が登録された。結果として、全体的な身体活動量と死亡との関連は見られなかったが、*sedentary* 時間が増加するにつれて死亡リスクが上昇する傾向が見られ、その傾向は有意であった(トレンド検定では $p = 0.042$)。逆に、*nonsedentary* 時間は死亡リスクを低下させる傾向があり、特に軽強度の身体活動が有意に死亡リスクを低下させた。これらの結果から、腎機能障害のある地域住民において、身体活動のうち特に軽強度の活動が死亡リスクを低下させる可能性があることが示唆された。

審査委員会では、申請者らが腎機能障害を有する患者の身体活動の量や強度と死亡との関連について今回の研究で初めて明らかにしたことを高く評価した。

以上により、本論文は博士(医学)の学位授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者	主査	杉本 健	副査	山内 克哉
	副査	中村 友彦	副査	